


令和6年度保健師等ブロック研修会「北海道・東北ブロック」2024/10/22



# 令和6年能登半島地震から学んだ **実践活動**

 宮城県保健福祉部健康推進課  
小川美穂

1

## 目次

**1** 東日本大震災を経験して

**2** 宮城県公衆衛生活動チーム

**3** 活動を振り返って



2

# 宮城県災害時公衆衛生活動ガイドライン

2008.6 岩手・宮城内陸地震の検証

2011.3 策定

宮城県災害時保健活動マニュアル

2011.3 東日本大震災の災害時保健活動の検証・評価

2013.4 策定

宮城県災害時公衆衛生活動ガイドライン

2019.10 東日本台風の検証  
国の災害時の危機管理体制に関する各種通知

2023.6 改訂

宮城県災害時公衆衛生活動ガイドライン



3

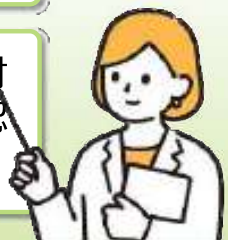
## 支援に当たっての基本姿勢

(宮城県災害時公衆衛生活動ガイドラインより抜粋)

支援に当たっては、**現地職員（市町村職員等）も被災者であること**を念頭におき、被災地の住民への支援活動とともに、現地職員も支援する役割を認識して行動する必要がある。

混乱の中で、現地職員が適時に指示を出すのは困難なことも考えられるため、公衆衛生スタッフは、支援業務や公衆衛生活動について、**自ら考え、現地の了解を得ながら主体的に活動する姿勢が重要**である。

また、公衆衛生スタッフが被災者への直接的支援のみならず、市町村や保健福祉事務所の通常業務を担うことも、被災地支援であることを認識しておくことが大切である。



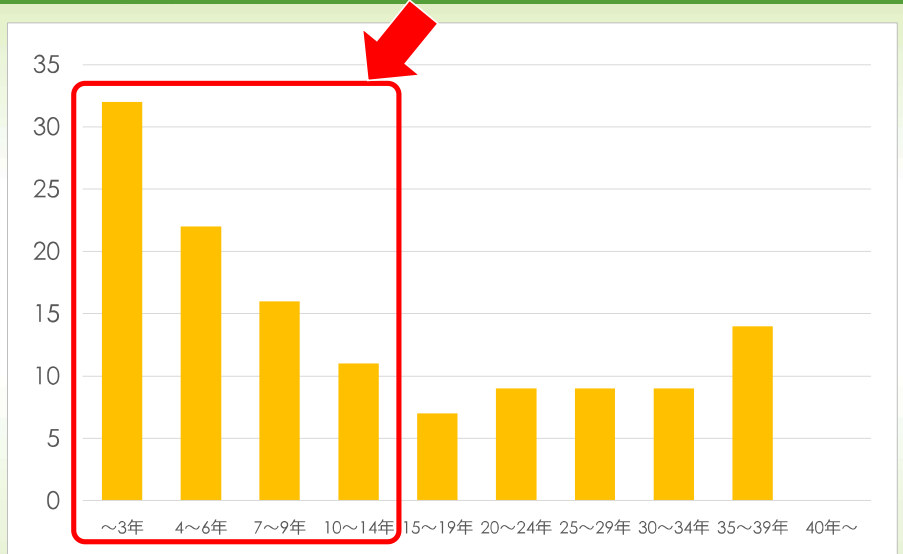
4

# 東日本大震災を経験した保健師の減少

令和5年度 県保健師数  
**129人**

平成23年度～令和5年度  
に採用された保健師数  
**81人**

震災対応未経験者の割合  
**62.8%**



勤務年数	~3年	4~6年	7~9年	10~14年	15~19年	20~24年	25~29年	30~34年	35~39年	40年~
県	32	22	16	11	7	9	9	9	14	0

令和5年度保健師活動領域調査（厚生労働省）

# 令和元年東日本台風対応に活かされたこと

## 災害医療支援チームと円滑な連携

- 平時から災害医療関係者との会議体があったことで、災害時には連日のミーティングで、災害医療チームと行政が乖離せずに活動が行えた

## 被災保健所の統括的保健師への支援体制

- 統括保健師が調整する所内体制・受援体制・被災市町村応援体制構築に対する支援があった

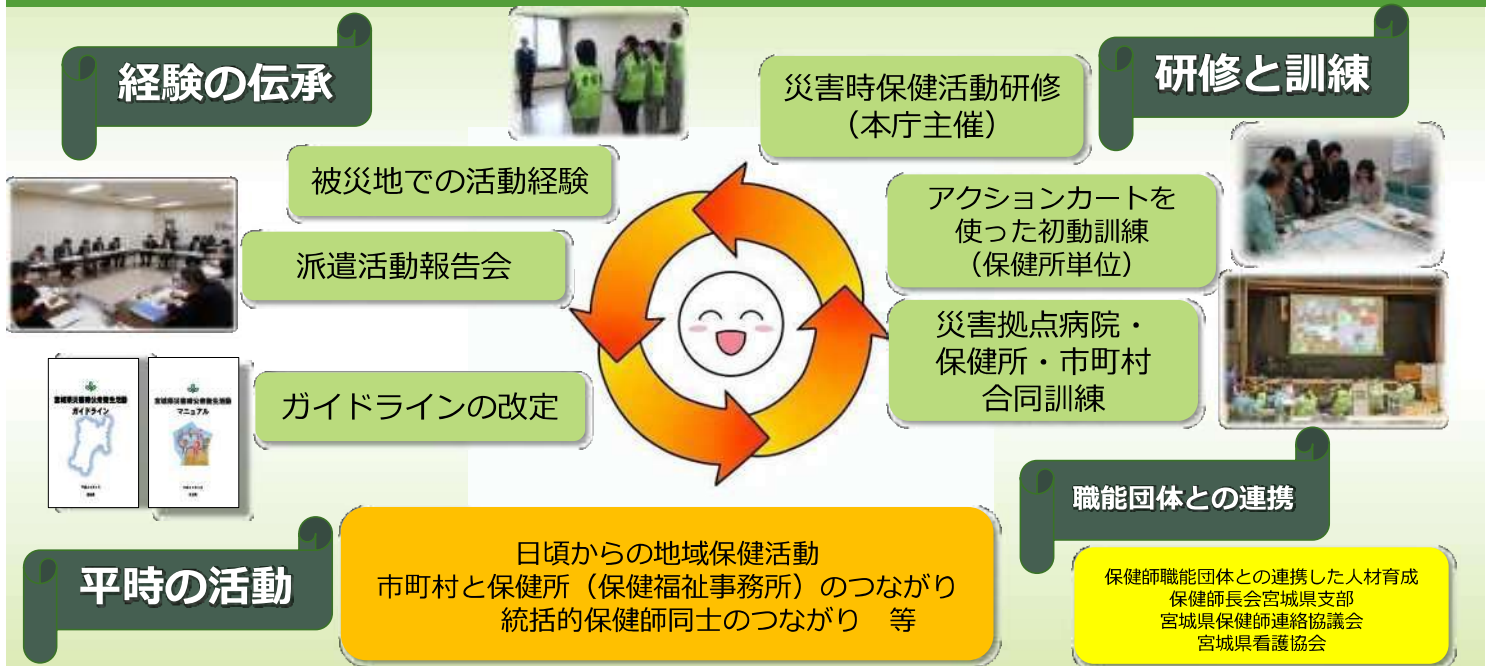
## 迅速な在宅避難者等の健康調査

- 県外派遣保健師の応援は、避難所支援のみならず初期から避難所以外の在宅の避難行動要支援者に目をむけ、安否確認を含めた訪問調査が開始された

## 避難所環境が向上しフレイル予防・感染対策

- 段ボールベッドの導入、衝立等のプライバシーの確保、食事や集会スペースの設置や動線の確保、手指消毒薬や感染予防に必要な物品が早期から整備された

# 人材育成



# 宮城県公衆衛生活動チーム

県は年度当初に先遣隊候補職員の名簿を作成

派遣期間	令和6年1月8日～3月15日 *移動日含む <b>第1チーム 令和6年1月8日～1月16日</b>
活動場所	石川県輪島市（門前地区） 拠点：門前総合支所
派遣人数 自治体	12チーム 40名 1チームあたり3～4名（保健師2名、ロジ1～2名） 1～4チーム 県職員 12名 5～12チーム 市町職員28名（名取市、気仙沼市、南三陸町、大崎市、七ヶ浜町、東松島市、塩竈市、丸森町）
活動内容	避難所住民の健康支援業務、在宅要支援者の健康管理業務

# 活動概要 (第1チーム)

## ミッション

- 避難所の調査 アセスメント (トイレ、食事、電気、生活用水等)
- 避難所の健康相談 → 必要な支援につなげる

## 主な協働・連携先

- 輪島市(門前総合支所)
- 石川県能登北部保健所 (石川県能登北部保健福祉センター)
- DHEAT(災害時健康危機管理支援チーム)
- 公衆衛生活動チーム (神戸市)
- DMAT(災害派遣医療チーム)等医療チーム
- 自衛隊

9

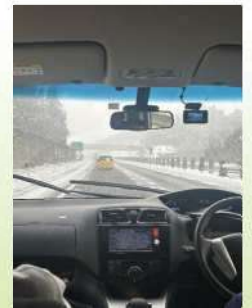
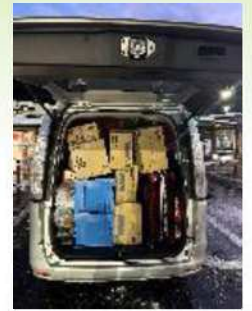
## 活動地域 輪島市門前地区



10

# 行程

1/8	宮城県庁→金沢市内（公用車）	移動時間 8h
1/9	石川県庁（金沢市）でオリエンテーション 石川県庁→石川県能登北部保健所（輪島市） 石川県能登北部保健所でオリエンテーション	移動時間 5h
1/10	石川県能登北部保健所→輪島市門前総合支所 活動開始	移動時間 2h
1/15	午後から第2班へ引継ぎ→金沢市内	
1/16	宮城県へ帰還（公用車）	移動時間 10h



# 輪島市



人的被害（人）	死者140（うち災害関連死者40人） 行方不明3 重傷者213 軽症者303
住家被害（棟）	全壊2284 半壊3871 一部損壊4228
避難所の状況	避難所8カ所 避難者85人

（被害状況輪島市ホームページより 9/3時点）



# DHEATによるオリエンテーション

## ● 能登北部保健福祉センター管内への支援状況

能登北部保健福祉センター  
(滋賀県)

輪島市  
(熊本県)

穴水町  
(大阪府)

能登町  
(茨城県)

珠洲市  
(富山県)

能登中部保健福祉センター  
(和歌山県)

※赤字：DHEAT、青字：保健師チーム

(輪島市内地区)

①門前地区  
(宮城県・神戸市)

②町野・南志見地区  
(-)

③輪島・三井地区  
(茨城県・徳島県)  
(三重県※ふれ健)

県庁  
(北海道)

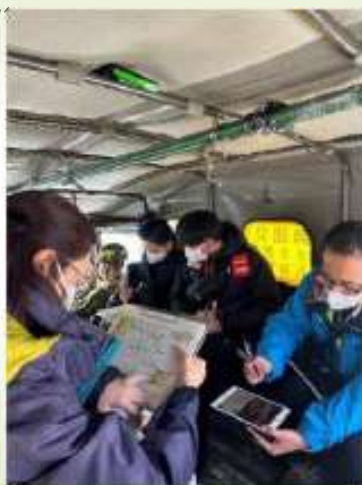
熊本県DHEAT資料  
1/9時点の体制

(石川県能登北部保健福祉センター)



# 医療・保健・自衛隊との協働

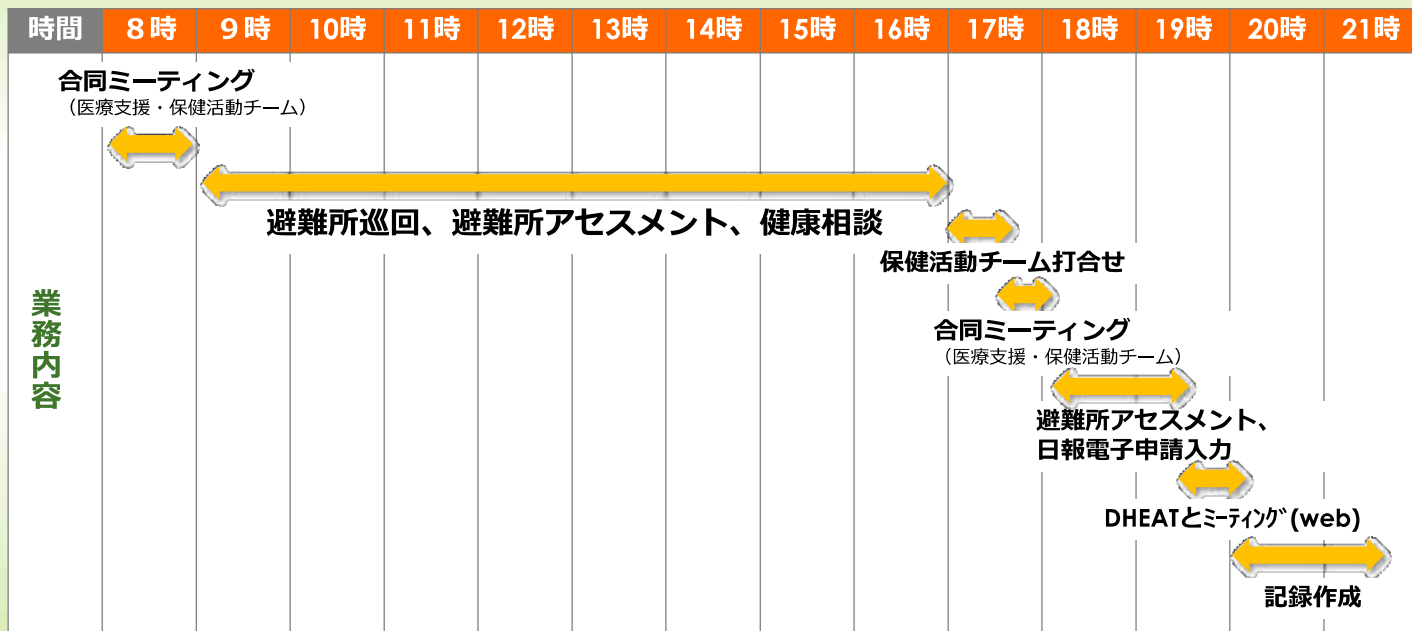
(輪島市門前地区)



朝夕の医療関係活動合同ミーティング

# 一日の活動の流れ

(第1チーム)



15

# 避難所調査/アセスメント

アセスメント実施日	施設名	危険回避OK	全件データOK	施設名	避難所種類	避難所長	避難所副長	避難所職員	避難所利用状況	避難所利用人数	避難所利用人数(男性)	避難所利用人数(女性)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)	避難所利用人数(高齢者)	避難所利用人数(障害者)					
2024-01-20 9:35:00	上末郡地区集会所	*	*	*	*	*	*	*	*	A	10	-	-	0	10	8	0	1	0	A	B	A	A	C	A	D	A	D	A
2024-01-08 19:39:00	本郡公民館	*	*	-	*	*	*	*	*	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2024-01-10 11:49:00	宝徳館	*	*	-	*	*	*	*	*	16	8	-	-	5	16	0	7	0	0	A	B	B	C	A	D	D	A	D	D
2024-01-10	ライフサービスた	*	*	*	*	*	*	*	*	A	80	-	-	10	20	5	-	-	-	A	B	A	A	A	A	D	A	D	A

ラピッドアセスメントシート 施設

施設名: 上末郡地区集会所

実施日: 2024年1月20日

実施時間: 9:35:00

実施者: [氏名]

実施場所: [住所]

実施内容: [詳細]

実施結果: [結果]

ラピッドアセスメントシート保健医療版

16



## 避難所の状況①



### 高齢化

避難所の8割が高齢者、何らかの医療（服薬）及び福祉ニーズが多い

### 寝て過ごす時間が多い

体力低下や生活不活発発病の可能性が高い

### 避難生活の長期化

集団生活によるストレスや疲労、不眠、血圧上昇、今後の生活への不安

### 生活環境

寒冷地、冷たい床に雑魚寝（低体温、ほこり、粉塵の吸い込み）プライバシー（仕切りなし）、仮設トイレ

### 食環境

食料支援の遅れ（カップラーメン、パン）食生活、栄養の偏り

17

## 避難所の状況②



### 衛生環境

断水による手洗い設備の不足、不衛生なトイレ、感染症の発生（インフルエンザ、新型コロナウイルス、胃腸炎）

### 手洗いの水も凍結する屋外仮設トイレ

（トイレの使用機会を控えるため脱水、体調不良）



18

# 避難所外避難

(ビニールハウス避難や車中泊)

医療チームと合同訪問



在宅避難（避難所外の避難）：在宅避難者の把握は次のチームから支援

19

## 活動を通して課題と考えられたこと

### 支援者、行政組織の状況

- 輪島市や石川県能登北部保健所の職員の大半が被災、出勤困難  
受援調整する人員の不足
- 輪島市本所と総合支所の情報共有が不十分

### 活動の阻害因子（過酷な環境）

- 通信障害
- 道路の損壊
- 天候（降雪）、慣れない環境の中の移動
- 活動拠点や宿泊場所  
活動拠点の会議室で雑魚寝、避難者と同じ仮設トイレ、風呂なし
- 被災地で物品調達ができない  
防寒具、寝袋、簡易トイレ、ガソリン、水、食料等全て持ち込み

20

# 活動中に意識したこと

## 情報共有の機会をつくる場の設定

- 朝夕の保健活動ミーティングの開催
- 毎日夕方DHEATとWebミーティングの開催

## 市と現状と今後の方向性の確認 (情報収集、現状分析、対策)

- 市の意向や大切にしたいことを共に考え実行する
- 過去の災害の経験や派遣経験を踏まえ気づいたことを伝える
- フェーズを意識した災害保健活動

## 市保健師、保健所保健師に寄り添い支援

- 職員の置かれている立場や気持ちに寄り添い支援する

21

# 活動中に意識したこと



## チームワーク

- チームでコミュニケーションを十分にとり、お互いに助け合い行動

## チームとしての責任ある行動と継続的活動

- チーム間で引継ぎ、継続的な支援活動

## 支援機関

- 他の支援機関の動きを把握

## 安全確保・健康管理

- 慣れない過酷な環境下での連続業務は予想以上に心身に負担がかかるため、健康安全管理に留意する

22

# 派遣活動を振り返って

## 情報共有

- 被災自治体のみならず、派遣元自治体とも常に情報共有

## 後方支援

- 安全かつ安心して現地で活動できるよう後方支援体制の強化

## 派遣後

- 職員の体調等のフォロー

## マニュアル改定

- マニュアル改定時に今回の経験を反映する

## 人材育成

- 今後の災害に備えた職員の育成

23

# 平常時からの準備

管轄地域の状況を把握

市町と連携

受援のための準備

派遣のための準備

保健医療福祉関係機関と会議等の開催

災害に関する研修や訓練

24

**一日も早い復興を心からお祈り致します  
ご清聴ありがとうございました**

